

○中島源陽委員長 続いて、公明党県議団の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。横山のぼる委員。

○横山のぼる委員 米価下落対策パッケージについてお伺いいたします。

今回の米価下落対策パッケージについては、いずれも米価下落対策に有効な支援措置であると認識しております。このような複数の課にまたがる対策パッケージをどのような体制の下でどのような団体の意見を聴取して制度設計したのか、お伺いいたします。

○村井嘉浩知事 県では今回のJA概算金の大幅な下落を受けまして、稲作農家の経営に影響が出ることが懸念されたことから、九月下旬、農政部内に技監をリーダーとして関係六課室から構成する米価下落対策チームを設置し必要な対策を検討してまいりました。その検討に当たっては農業団体など各方面から寄せられた要望を参考にしたほか、現地に出向きJAや市町村、家族経営体や大規模農業法人からJA概算金下落の影響などについて直接聞き取りを行いました。また、市町村の独自支援に関する調査、市町村やJAの担当者との意見交換など様々な機会を通してできる限り多くの関係機関や団体の意見聴取に努めてまいりました。主な御意見としては米の消費拡大や生活困窮者等への現物支給、在庫米対策、園芸作物などへの作付転換支援、金融支援などがあり、県としてはこうした意見を踏まえ、対策チームで検討を重ね対策として取りまとめたものがありますので、我々が今回出しております案はそうした御意見をしっかりと踏まえたものということでもあります。

○横山のぼる委員 また、年度内執行という短期間での執行が求められますがどのような点に留意して執行されるのか、併せて今回の補正分の作付転換支援を通じてどのくらいの水田面積の作付転換を予定しているのか、お伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 今回の補正予算でございますが、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しておりますので、年度内の事業完了が求められております。このため県では補正予算案を公表した先月十七日から県内四か所で市町村やJA等の担当者を対象とした事業説明会を開催いたしましたして、事業概要の説明を始めております。また、本対策のチラシを作成し農業者へ配布するなど関係者への周知を先行して進めさせていただいております。更に、交付申請書類や添付書類など手続面でもできる限り簡素化をいたしまして、農業者の負担軽減に努めますとともに交付事務担当者向け

のQ&Aの作成、配布など市町村等と連携しながら迅速かつ円滑に交付事務を進め、年度内に事業完了できるように調整しております。なお、今回の補正予算による大豆、麦、園芸作物、飼料作物など主食用米以外の作物への作付転換面積は、現時点での試算ということになりましたけれども全体で約千八百ヘクタールを見込んでおります。

○横山のぼる委員 今回の作付転換支援を講じることによって昨年及び今年の米余りの解消をどのくらいできるのか、認識をお伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 消費拡大支援で約千五百トン程度、それから作付転換支援が先ほど申し上げたとおり千八百ヘクタールでございますので九千トン程度、これらを合わせまして一万トン程度の効果があると思っております。

○横山のぼる委員 営農継続のための支援についてお伺いいたします。

作付転換のための機械・施設導入支援については年度内の予算執行となり繰越しは認められないとありますが、コロナの影響により新車などの納入は相当な期間がかかっており大型機械なども同様であると思いますが、年度内の納入完了ができない場合はどのような対応が可能なのか、お聞きします。

また、年度内に納入ができなくても契約の取り交わし等をもって補助事業の対象にするなど柔軟な対応が求められると思いますが、お伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 この事業は先ほど申し上げましたように年度内に完了する必要がございます。このため、県としましては関係機関や農業機械メーカー等と年度内の納品に向けて調整を図りながら、できるだけ多くの方に事業を活用していただけるよう努めてまいりたいと考えております。また、今年度内の納入が困難な機械・施設につきましては、納品見込み時期等に応じまして来年度以降の国や県事業を活用して引き続き支援ができるよう努めてまいります。

○横山のぼる委員 特に組立て式のパイプハウスなども導入支援としてありますが、そういった部分はこれから発注して年度内に納入となるとなかなか難しいと思いますので、引き続き新年度の予算で対応できるということと理解いたしました。

生産資材費支援についてはそれぞれの品目の種苗費、肥料費、農薬費等の一部を補助する制度設計がありますが、それぞれの補助上限額で実費の何割程度をカバーするようになるのか、お伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 生産資材費の補助額でございますけれども、品目ごとに補助上限額が対象作物の種苗費、肥料費、農薬費の二分の一相当額となるよう定めておりますので、二分の一というふうに考えております。また、県では水耕栽培を含む園芸施設について産地生産基盤パワーアップ事業や強い農業・担い手づくり総合支援交付金などの国庫補助事業導入に関する要望調査を毎年九月頃に行つて、そういう希望を把握させていただいているほか、県単独事業についても各地方振興事務所を通じて把握することとしております。今後とも市町村や関係機関と連携し農業者の意向の把握に努めまして、引き続き園芸施設の導入を支援してまいりたいと考えております。

○横山のぼる委員 令和三年産米の消費拡大支援についてお伺いいたします。

現在、十二月一日から二十七日まで宮城県WEB物産展において宮城のお米に使える三〇%オフクーポンが実施されていますが、今回の補正分のインターネットを活用した販売支援については現在開催中の宮城県WEB物産展の割引などとの関係はどうか、お伺いいたします。

また、新たな割引率を適用するのか、お伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 宮城県WEB物産展との関係でございますが、この宮城県WEB物産展は令和三年度当初予算で措置されました県産品デジタルマーケティングモデル構築事業の中で、大手インターネットショッピングモール「楽天市場」内に開設したものでございます。昨年度に引き続きまして新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、そこに追加的に割引クーポンキャンペーンを実施してきたところですが、今回、米価下落に伴う速やかな消費拡大支援策として同じスキームを活用しようとするものでございます。具体的には割引クーポン原資とデジタル広告配信費を増額するものであります。また、対象は宮城県産米とし、割引率の差は設けないこととしております。

○横山のぼる委員 同じ枠組みを使ってやるということとどれくらい割引率を増加しようと考えているのか、お伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 当初予算でお認めいただいていた部分それから追加的に先行してやっている部分を含めまして、米につきましてはこれまで八月と十月に実施してきている部分がございます、その割引率は一〇%ございました。それに補正分と当初の残分を含めまして十二月と一月にそれぞれ展開しているんですけれども、三割まで割引率

を上げたいと考えております。ただし、米の品種では差を設けず、米として三割という割引率にしたいと考えております。

○横山のぼる委員 消費拡大支援のうち家庭向けみやぎ米商品の増量等については、年度内の短期間の中で実施されるため県内に本店を有する米穀卸業者に依頼するとしておりますが、その増量の割合はどのように考えているのか、また、希望する米穀卸業者も助成対象にすべきと思いますが、お伺いいたします。

○宮川耕一農政部長 増量の程度でございますけれども、家庭向けに販売されるみやぎ米を通常よりも五%から一〇%程度増量して販売するものなどを想定しております。また、この事業の対象は卸売業者にお願いしたいと思っておりますが、その規模は問わず、みやぎ米の消費効果が大きい御提案から順に予算の範囲内で支援の対象にしたいと考えております。

○横山のぼる委員 以上で終了いたします。

ありがとうございます。